

平成28年度 岸和田市貝塚市清掃施設組合議会

議員視察報告

視察場所 神戸市環境局東クリーンセンター  
フェニックス大阪沖埋立処分場

視察日時 平成28年11月2日（水）

参加者 阪口芳弘 議長・井舎英生 副議長・井上源次 議員・今口千代子 議員・金子拓矢 議員・河合馨 議員・友永修 議員・雪本清浩 議員・米田貴志 議員・川岸貞利 議員・阪口勇 議員・田中学 議員・谷口美保子 議員・中川剛 議員

視察目的 クリーンセンターの維持管理及び整備計画について  
廃棄物最終処分場の見学

視察内容 施設視察及び業務内容調査

業務内容に関する主な調査事項は下記のとおりであるが、これらの事項に加えて当組合議員から、ごみ処分手数料の徴収方法や施設の管理運営についての質問がされるなど、有意義な視察であった。

[業務内容に関する主な調査事項]

実施日	施設名	所在地	能力・規模等		竣工
平成28年 11月2日	神戸市環境局 東クリーンセンター	神戸市東灘区	焼却炉 300 t × 3 炉	発電容量 20,000KW	H12年3月
	フェニックス 大阪沖埋立処分場	大阪市住之江区	面積 95ha	埋立容量 1,400 万 m <sup>3</sup>	H21年10月

<神戸市環境局 東クリーンセンター>

平成12年3月の竣工で川崎重工業（株）の施工である。焼却能力は900 t（300 t /日の炉が3基）で、発電能力は20,000 kWとなり余剰電力は売却している。

平成21年度から第3加熱器、平成23年度からボイラー第1放射室水管、平成25年度から第2加熱器の改修が実施されている。今後は平成29年度から平成36年度の期間で水冷壁、ボイラー水管、バグフィルター、脱硝触媒の更新を予定している。川崎重工業独自の構造や専門性のため整備工事等は随意契約となるが、設計積算は職員により歩掛積上積算を行っている。

<フェニックス 大阪沖埋立処分場>

大阪湾広域臨海環境整備センターの事業として、現在近畿2府4県168市町村の一般廃棄物等を受け入れ最終処分しており、尼崎沖、泉大津沖、神戸沖、大阪沖の4つの埋立処分場がある。

尼崎沖、泉大津沖は地残土や浚渫土砂等のみを受け入れ、神戸沖、大阪沖は焼却灰等を受け入れている。岸貝クリーンセンターの焼却灰は堺基地を經由して大阪沖で埋立処分している。

今回視察の大阪沖埋立処分場は、周囲4.5kmの囲みを建設し、20m粘土層と鋼板矢板により海

と遮水し、内水が外部に出さない構造に、その内部に大阪府や京都府、奈良県、和歌山県の一部の焼却灰等を受け入れている。大阪基地、堺基地、和歌山基地に集約された焼却灰等の廃棄物を、海上輸送で（堺基地からは1日2回）運搬され、揚陸岸壁から大型ショベルでダンプトラックに積み込み、海底が平らになるように浮棧橋を使い埋め立てている。埋立内には排水処理施設があり、埋立による汚染された水を浄化し、区域外の海に放流している。

大阪沖処分場は平成21年10月1日から受入開始し、当初埋立期間は33年度の予定であったが、埋立期間を39年度まで延長し、計画の3割程度を埋め立てている。また、大阪市下水道局のスラッジセンターの完成や各排出者の努力により焼却灰が減少していることに対し、謝辞があり、今後とも減量に努めてほしいとの要請がある。

埋立完了後の土地利用については、大阪市へ返還し危険物取扱施設の移転予定となっていて、東側の国の直轄事業完成後、夢洲と道路等で結ぶ計画である。ちなみに夢洲は万国博覧会予定となっている。